

フキ (蔞)

名前の意味^{いみ}：はっきりとはわかっていない。芽吹く^{めぶ}の意味という説もある。

分類：双子葉類、キク科、フキ属

(キク科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ヒマワリ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、土手^{どて}

分布：本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：かさのように広がる丸い葉、ふきのとうと呼ばれる花序^{かじょ}。

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数^{ごうべん}：合弁、5裂^{れつ} (目ではよく見えない)

花の時期：3—4月

食べ方：若葉と花序^{かじょ} (花のあつまり：フキノトウ) は、栽培^{さいばい}されるほどうまい。若葉の葉柄^{ようへい}は甘辛^{あまから}く煮たり、煮物^{にもの}にしたりする。フキノトウはてんぷらにしたり、刻^{きざ}んで味噌^{みそ}に混ぜたりする。

見分け方：千葉県には、にた種類はない

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)